令和7年度 第3回 多摩市子どもの読書活動推進市民ボランティア連絡会 要点録

日 時:	令和7年10月23日(木) 13:30～16:30
場 所:	多摩市立中央図書館 2階 活動室2・3
出席者:	えほんの会、おはなしシュッポッポ、コアラ文庫、The Witches、多摩おはなしネットワーク、多摩おはなしの会、多摩市文庫連絡協議会、布の絵本サークルピエロ、もりの文庫
欠席者:	おはなしチャチャチャ
事務局:	企画運営担当2

開会、資料の確認	
	事務局より事前共有資料と当日配布資料の確認。 事前共有資料と番号がずれている。資料7→資料6。

1. 報告事項	
(1)「第二次多摩市読書活動振興計画」について	
事務局	計画の策定ができた。引き続き、お力添えをお願いしたい。 本来であればこの場で冊子を配布する予定だったが、印刷が完了していない。完了次第配布させていただく。内容は図書館ホームページで公開されているので、ご確認いただくことはできる。 有識者会議にご参加いただいていた委員から一言あればいただきたい。
委員F	明確に出されているわけではないが、図書館協議会が計画進行を見守る中で、市民ボランティア連絡会は意見を挙げていく団体になる。 計画が進んでいくよう、会議のあり方が大切だと考える。今後もこの連絡会での協議を引き続きお願いしたい。
委員H	図書館協議会を傍聴した。評価は今まで通り図書館協議会がおこなうとのことだった。 新しい計画では子どもに関する部分が薄くなった印象がある。この会議でしっかり意見を挙げていきたい。
会長	図書館協議会の日程も把握しておくべきか。
委員F	図書館協議会は計画の評価だけが仕事ではない。年に4～5回の開催で、実質4年半の時間ではすべての項目を評価しきれない、いくつか項目を選ばざるを得ないという話が前回の図書館協議会で出た。その取り上げられる項目の中に子どもの読書活動の部分がしっかり入るように、この会議で意見を挙げていく必要がある。 これまでの計画とは異なり、継続した庁内や学校関係の連絡会があるわけではないので、しっかりと意見を言っていかなければならない。図書館協議会にどのように意見を提示するのかを、ここで話し合わなければならない。日程を把握しているだけではいけない。
会長	もちろん、日程を知るだけでは不十分である。子どもの読書の観点から意見を挙げていくには、協議会で何をしているのか知る必要がある。図書館ホームページで記録を見ることもできるし、できる限り内容を知ってほしい。
委員F	そういったことを皆さんに確認しながら、これからのこの会議のあり方も考えていかなければならない。
会長	図書館協議会はいつか。
事務局	次回の図書館協議会は2月12日の予定。
会長	こちらの会議の方が早い日程の予定。何か挙げたいことがあれば会議にかけられる。

事務局	こちらの会は図書館長へ報告する会という立ち位置になる。
委員F	図書館協議会が意見を聞くことはPDCAサイクルに入っている。
事務局	図書館長を通して意見がいくというイメージ。下部組織ではないので、どのように持ち込むかは検討する。
委員F	スムーズにいけるかどうか。図書館協議会がどの項目を評価するかは決まっているか。
事務局	これから決まる。
委員F	2月の時に詰めた話をするか。
事務局	その予定である。
委員F	その時に、ここの意見をどのように伝えるか。図書館協議会でも検討されるとよい。
会長	図書館協議会の動きや、話し合いの内容などを皆さんも注視していただくようお願いする。

(2)令和7年度　事業実施状況について	
事務局	資料1に沿って報告。
会長	質問があればいただきたい。
委員D	講座の参加人数について。読み聞かせ講座初級の参加人数が申込人数に対して10人減っているのはなぜか。
事務局	3回連続で参加した方を数えたもの。体調不良などで1～2回の参加だった方もいた。
委員D	括弧書きでよいので詳細な人数も入れてほしい。
事務局	改める。(「3回ともキャンセル」を除くと28人の参加)
委員D	初級講座の参加者にコアラ文庫に新たに入った方がいる。その方は仕事で読み聞かせをしていたが、ボランティア活動は初めての方だった。他にも完全な初心者ではない方もいたと聞く。そのような方々を受け入れたということは大切。すそ野を広げる意味でも続けてほしい。
会長	フォローアップの参加者は何名程度の予定か。
事務局	はっきり日程が決まったのは5、6名。
委員D	フォローアップは講師を招くのではなく、図書館職員が個別にやっていただけるということでよいか。
事務局	そうである。
会長	夏休み講座の申込人数についても伺いたい。組数と人数が割れないようだがなぜか。また、定員を大きく超えた申込だったようだがお断りとなったのか。
事務局	広報段階から定員を超えた場合は抽選であることをお知らせして募集した。昨年度までは個別申込であったが、兄弟や友人間で当落が別れたことでキャンセルが発生する問題があり、今年度からグループ(2～5人)での申込をできるように改めた。

2. 議題	
「第17回ほんともフェスタ」について	
事務局	資料2～5に沿って説明。
委員D	カードはどのようなものか。昨年のしおりは良かった。
事務局	名刺程度の大きさで、厚みのあるものを作っている。イラストは昨年と同じ動物のもの。
委員D	特に男の子はトレーディングカードが好き。カードだけが目的にならないように気をつけてほしい。
事務局	図書館に来たり、おはなし会に参加したりのきっかけになれば、と考えているのでトレーディングカードほど作りこんだものにはしない。(見本として試作品を示す)
委員D	シートに各図書館の入り方(入館のしかた)が丁寧に書かれている。昨年もあったか。

事務局	昨年は住所のみで、子どもにやさしくない案内であると改善点として挙がった部分である。今年度は改めたく手直しをしている。紙面が限られているのでどこまで入れられるかの問題はあるが、3月に開催されるおはなし会の情報と共に載せたいと考えて構成している。
会長	定例のおはなし会も掲載されるか。
事務局	3月の定例のおはなし会は、すべて「ほんともフェスタ」の冠をつけるため掲載する。 定例のほかに開催する団体もいるものと思われるので、例年通り追加のおはなし会開催の調査は後日出させていただく。会場が中央図書館に集中しないようにはしたい。地域でスタンプラリーの難易度が変わってしまうことのないようにしたい。 スタンプラリーにおはなし会が組み込まれることによって、お手伝いいただきたいことがある。シールの配布と台紙への案内である。特に台紙は小学校には配布するが、未就学の子どもたちは自ら手に取らなければ手に入らない。また、シールを台紙に貼ること、2マス目以降に貼ったらカウンターに向かい記念品を受け取ることをご案内いただきたい。管理は図書館がおこなうので、おはなし会の時に必要な物品をまとめたセットを受け取って、現場で子どもたちへの対応をお願いしたいが、どうか。
委員D	直接PRするということか。
委員F	シールを貼らせることもするということでよいか。
事務局	その通りである。シールを取っておいてなかなか貼らない子どももいるので、誘導してほしい。
委員D	シールはもらってすぐ私物に貼ってしまう子もいるので、台紙への誘導が必要なのはわかる。
会長	箇条書きでよいので、やることをリスト化してもらえるか。
事務局	リストは作成してセットに入れる。
委員F	「忘れずにカウンターに寄ってください」というのはそれなりの目的があってのことか。
事務局	おはなし会後の子どもたちが、どんな様子か見たいという目的がある。感想を聞くわけにはいかないが、充実した様子なのか、何だかわからない様子なのかは見て取れる。
委員F	図書館の体制として、カウンターにいる職員が、子どもたちが来たときにどう対応するか全館で共有するか。子どもが来たら、機械的に記念品を渡すだけではないということか。
事務局	対応は全館に共有する。昨年までのスタンプのみの時も、カウンターの職員は子どもと「こんなに集めてすごいね」などのやり取りをしている。相手は子どもなので、機械的な対応はしない。 まずは皆さんに現場でお手伝いいただけるかどうか、確認させて頂きたい。
会長	やるべきことがわかる形になっていれば、やらないところはないと思うが、どうか。
	賛成
会長	「ほんともフェスタ」のチラシについて。イベントが掲載されるが、定例のおはなし会を載せるスペースがなく、スタンプラリーの台紙に掲載したという経緯があった。今年はどうか。
事務局	今回はスタンプラリーとおはなし会をマッチングさせたいので、3月のおはなし会にしぼって掲載する。昨年掲載していた内容は「中央図書館：第〇日曜日、〇時～」のような細かい文字の並んだものだった。そういったものは載せない予定でいる。定例のおはなし会についてはプログラムに掲載することはできるが、3月ということで4月以降に時間やサイクルが変わるということが発生している。プログラムはまだ構成前だが、何かしら定例のおはなし会について掲載したいとは考えている。
委員F	3月はスタンプラリー台紙に掲載されるので、プログラムの方に4月以降の情報を掲載するのは難しいか。
事務局	印刷し、2月20日には各学校に到着する流れから、1月20日の市民ボランティア連絡会には決まっている必要がある。
会長	定例はすべて「ほんともフェスタ」の冠をつけるということか。

事務局	3月は基本的にそうなる。 4月以降の調整については、各館と団体との調整が可能であれば、予定という形で掲載することも検討できる。
委員F	できる限りでやっていただきたいと思っている。
事務局	できる限り、赤ちゃんおはなし会を含めた定例おはなし会の情報は載せたいと考えている。
会長	定例が大切ということを図書館側が認識している印象があり、良いと思っている。 これまでは「ほんともフェスタ」の時だけ、という印象だった。今までも冠は付けていたか。
事務局	少なくとも5年前から、3月のおはなし会には「ほんともフェスタ」の冠がついていた。子どもには「定例」という言葉自体なじみがないのでカレンダー形式とし、「今日はここ、明日はここ」と直感的にわかりやすくなるよう心掛けた。また、紙を見るよりおはなし会の現場で、みなさんの口から「毎週・毎月やっているよ」と直接ご案内いただく方が子どもの印象に残り効果的なのではと考え、カレンダー形式に変更した。
委員D	スタンプ台紙の見本はモノクロのコピー用紙だが、実際はカラー印刷などになるのか。
事務局	カラー印刷ではないが、用紙はより白く厚みのある用紙を使う。スタンプのインクがカラフルなので、白い台紙にモノクロ印刷できれいに見えるのは昨年確認している。大きさはA4を予定しており、折らずに配布することを検討している。昨年、プログラムがA3二つ折りのため間に挟んで配布した。同じようにし、折るかどうかは子どもに任せる運用にする。
会長	もっとカラフルになるのか。
事務局	カラフルにはならない。白黒印刷で、透けない白い紙を使う。
委員D	そのサイズだと、カレンダーの文字が非常に小さくならないか。子どもには見えるかもしれないが。
事務局	見本は、A3で作っていたものを縮小したもの。もともとA4でレイアウトしたものより小さくなっている。本刷りの際は小さくなりすぎないよう改める。
委員I	地図の「図書館」が他の文字に埋もれてしまっている。強調して、もっとわかりやすいようにしてほしい。
委員H	文字を少し太くするなどしていただければよいと思う。カレンダーはとても良いと思う。
事務局	対応する。
委員F	これまでスタンプラリー企画で懸案事項となっていたことが大きく改められ、よかったと思う。

3. 情報交換	
「人流データ」の提供について	
事務局	当日配付資料に沿って説明。 この資料は多摩市独自のものではなく、民間企業もかかわっているもののため、この会議で使用することの許諾は得たが、ホームページ等での公開はできないものになる。会員との紙面の共有は問題ないが、それ以外への共有などはせず、内部資料として扱っていただきたい。 趣旨としては、おはなし会の効果的な時間帯を検討するにあたり、参考にするため数字を出したものである。図書館にいつ、どのような属性の方が何人くらい来ているのかを調査したもの。 中央図書館と豊ヶ丘図書館のみの提供となったのは、「図書館」のみの来館者を絞れたため。建物を真上から関知するものなので、他の複合施設では階上・階下に他の施設があるため、図書館なのか他の施設なのか判別がつかなかった。 集計期間は1年間となっている。 中央図書館に子ども連れで来館する可能性のある保護者層（30～40代）の来館時間帯や曜日は、

	月曜日の午前中と水曜日の午後が比較的多い。土日は、昼以降に大きく増えることがわかった。 豊ヶ丘図書館について、おはなし会が成立しにくいというご意見が度々出ていた。実際にデータを出したところ、20～30代の来館は数字が出ないほど少ない。 近接している「八角堂」の利用者がどの程度豊ヶ丘図書館を利用しているかも確かめたところ、八角堂利用者の半数が図書館を利用しており、図書館利用者の4分の3が八角堂利用者であることがわかった。ここの行き来があることが数字として出てきた。八角堂はイベントをおこなっていることも多く、そこに人が来ている。特に「ランタンフェス」。今年は10月6日から13日にかけて、社会実験も兼ねて開催されていた。その時の人流としては「図書館には来ていない」ことがわかった。図書館が何もしていなかったというわけではないが、ランタンフェスのチラシには「企画展示」しか載っていない。この八角堂のイベントに、図書館側から一緒に作っていくという積極的な意識を持ったうえで、関わっていくことが必要ではないか。 豊ヶ丘図書館では日ごろ、平日に他館と同じようにおはなし会をすることが困難であることが数字として出てきてしまった。しかし、イベントを開催するとこの地域に人が来ないわけではない。ランタンフェスなどには、電車やバスを乗り継いで来ている。こういった機会を逃さずに、少しでも図書館をPRし、1回でもおはなし会をするなどして図書館の認知度を上げるよう行動することが必要ではないかと考えている。 この資料は、皆さんがかねてよりご心配されていたおはなし会の時間帯の参考になればと用意した。
会長	何か質問や意見はあるか。
委員D	私が聞いたのは、実験的な地域活性化ということで確か都立大の先生がここに関わっていて、ランタンフェスの前から地域の活性化、大学とのかかわりの中ですぐ隣にある豊ヶ丘図書館がそこに参画しているという動きはあったのではないかと。 おはなし会だったかは定かでないが、例えばリサイクル本を配布するなどがあったのではないか。まったく何もしていなかったわけではないのではないか。
事務局	ランタンフェス本番は10月11日・12日である。その日を含めた10月6日～13日に、おっしゃった通りの社会実験をしていた。どのように使っていけるのかという実験を屋外でおこなった。 図書館も企画運営担当2が現地に出向いて関わった。豊ヶ丘図書館としては、そこでおはなし会をするといったことが難しく、また社会実験そのものがどのように展開するかもわからない全員が手探りの状況での実施だった。我々としても、まずは本を置いてみる。大人の本も子どもの本も問わず、休憩スペースのような場所に置いたら、手に取られるのかという実験として本を提供した。 また、子どもたちの集まり具合によって、もし本を読んであげられるようであればやりたいと考え、状況を見るために職員が日替わりで現場に行った。しかし実際の状況としては、いつも児童館に来ている子どもたちはいつもと違う環境にはしゃいでおり、おはなしを聞くという状況ではなかったため無理に実施はしなかった。ただ、子どもたちと一緒にその場での遊びをすることはできた。図書館としても、初めての試みであり、主催者側も手探りであったため状況を見ることを主目的としていた。 やはり小さい子ども、未就学の子どもたちは、ランタンフェス本番以外ではあまり出会えなかった。赤ちゃんおはなし会を水曜日にしていたと記憶しているが、その日は帰りに立ち寄ってくださる方がいた。そのほかの日は、放課後の小学生が夕方になってやっと現れる程度でしか子どもには会えなかった。6日の初日は小学校の振替休日に当たっており、児童館の職員の誘導もあって朝から子どもの姿があったが、それ以外の日は夕方頃にならないと子どもはいなかった。しかし、児童館に来る子どもたちに合わせて、1冊2冊の本を読む機会はあるのかもしれないと感じた。普段のおはなし会で想定している小学校低学年より下の年齢の子どもは、セロではないがほとんどいない。
委員D	おはなしチャチャチャの活動は再開していないか。

事務局	していない。再開は平日になると想定しているが、今回人流データの数字が出たことと現場に行ったことで、開催が困難であることがわかってしまい「再開してほしい」とはお願いしにくい。声をかけるにしても、図書館が一緒に何かできるイベントがあるときではないかと考えている。 ランタンフェスはかかわりがゼロではないので、おはなしを読む機会をいただくのも手。ランタンフェスの一環として、「この時間は図書館の中で何かやっている」と言っていただけるようなことができると、家族連れの方が立ち寄ることも見込める。多摩市民ではないかもしれないが、広く「子どもに」何かできることがあればと考えている。
会長	図書館が実態調査してくれるのはとても良いと感じている。やっている方ではつかみにくい部分。必要なことがよくわかるようになる。具体的なニーズを挙げていただいて、協力できることがないか会でも検討できる。
委員D	店の名前は失念したが、豊ヶ丘商店街で子ども食堂をはじめた団体がいる。そこがランタンフェスのときに豊ヶ丘図書館のリサイクル本を店の前に置いて提供していたことがあると聞いた。子ども食堂には、数は少ないが小学生も来ている。待つのではなく、子どもがいるところに行くことが必要。
事務局	子ども食堂の件は企画運営担当2として把握していなかった。豊ヶ丘図書館職員に確認する。運営団体とやり取りができて、月に１回でも出向いて何かやるチャンスがないか検討したい。
委員D	高齢者も子どもも含めた居場所づくりをしたいという思いでやっている。子ども食堂が始まってまだ数年しか経っていない。店はもともと空いていた店舗を活用している。
事務局	永山にあった「キッチンカラーカ」か。
委員D	その店である。カラーカが閉店してしまったため、オーナーが豊ヶ丘に拠点を移した。若い運営者が意欲的に動いている。
事務局	関戸図書館から、赤ちゃんおはなし会が盛況になりすぎてしまい、月2回開催にできないか検討したいという話がきている。
委員F	理由は判然としないが、8月から12～13組の参加が3ヶ月続いており、直近の21日は13組26人の参加があった。その前までは5～6組程度だった。突然増えたという印象。開催は火曜日の午前中。
副会長	平日火曜日にその数はすごい。
委員F	3ヶ月続けてきている親子もいる。双子の参加もあった。活動室にマットを目いっぱい敷いてもいっぱいいっぱいだった。
副会長	聖蹟桜ヶ丘駅周辺にマンションがたくさん建っている。その影響があるのでは。
委員F	しかし、普段の定例おはなし会の状況は変わっていない。
委員 G	昨日、関戸で定例おはなし会を担当した。大人も子どももいなかった。雨で寒かったことも原因かもしれないが、本当に人がいなかった。
会長	小さい子どもは、産休や育休を取っている間、親子一緒におはなし会に来られる。その親子への需要はある。育休が明けると保育園に入り、来なくなってしまうのかもしれない。
事務局	我々も月2回のブックスタートで赤ちゃんおはなし会をご案内している。今の親には伝わっているということかもしれないと感じた。大きくなってしまった子どもたちには難しいかもしれないが、小学校の図書館訪問などでも伝えていきたい。赤ちゃんの頃から親に図書館に連れてこられていれば、何かのタイミングで知っている場所であることがきっかけになり戻ってきてくれるのかもしれない。保育園や幼稚園でもおはなし会はしている。提供する相手が変わっても、おはなしと触れる機会が途切れないようになると理想だと考えている。
委員F	その通り、図書館には来られなくても、保育園でのおはなし会などでとにかく途切れないように繋ぐ工夫をすることが必要。赤ちゃんおはなし会に参加していた子どもに保育園での出張おはなし会の際に再会することも、図書館のおはなし会に参加していた子に、小学校のおはなし会で再会すること

	もある。ここ2～3日の間に、もう子どもが大きくなったお母さん方に「赤ちゃんおはなし会に参加していました。今もやっているんですか」などの声をかけてもらったことがある。覚えていてくださったことがうれしかった。継続してやっているのが大切だと実感した。図書館でないところでおはなし会を経験していて、それから図書館のおはなし会に来て、小学校に行ったらボランティアによる出張おはなし会があって、そこで同じ子どもと接触でき、成長を見られたこともある。どうやって繋いでいくかを考えていけたらと思っている。
事務局	事務局からも、取り組みをひとつ紹介させていただく。小学校の学校図書館司書の集まりに参加させていただいているが、その時に多摩市に、1年生に毎日1冊必ず読み聞かせをしている先生がいるという情報を伺った。毎日なので、学校図書館司書も毎週5冊の選書をしなければならないのは大変だが、嬉しいとのこと。教員側にも「大きくなったから読まなくていい」ではなく、聞かせることを続けてくれる方がいることがわかった。
副会長	先生によって考え方が全く異なる。朝読書の時間に行くだけでも、先生のおはなしへの興味の有無などの様子はわかる。今うかがったような先生がひとりいてくださると評判になって、毎日ではないにしろやってくださる先生が出てくるだろうと思われる。
委員H	本を読むことを大切に思っている先生は、以前はたくさんいたが今は忙しさもあり難しいのかもしれない。このような先生が繋がれるとよいと思う。それぞれのご家庭で、図書館に連れて行ってもらうチャンスに恵まれなかった子どもたちに何とか繋がれればと思う。データもありがたい。これからの図書館を考えるときに、活かしていっていただきたい。
会長	複合館でデータを取るのは難しいのはわかるが、状況の理解にとても役に立つと考える。育休の間に図書館に来ていた親子がその後どこに行くのか、繋がりを考えたい。ほとんどが保育園に行くと思われるが、その外でどう繋がれるか考えていきたい。子どもたちを主体として、こちらのやりたいことをやるだけにならないようにしたい。

4. 連絡事項	
(1)小道具の申込方法の変更について	
事務局	資料に沿って説明。
会長	どこの図書館でも申込できるのか。
事務局	可能である。
委員F	貸出できる小道具のリストはあるのか。
事務局	各館のカウンターに同一の写真付きリストを用意している。
副会長	以前は「中央で借りたものは中央で返す」というルールだったが、書籍と同じ扱いでよいか。
事務局	書籍と同じように、借りた館と別の館で返してもよいというルールに変更した。
副会長	それはありがたい。
委員G	期間は2週間か。
事務局	期間は変わらず2週間である。 カウンターで書籍を予約するのと同じように、小道具の予約をしていただくイメージである。

(2)おはなし会で使った資料等のミニ展示について	
事務局	中央図書館で実施できていない件について。現在、おはなしのへや入口付近に「モバイル書架」を設置してある。そこに書籍を置き、もし作成しているのであればリストも貼っていくと、他の団体の様子も見えるのではないかと考えている。

	ただ、団体が借りている状態の書籍をどう扱うかの動線の確認が必要。特に土日は普段中央図書館のカウンターに出ない職員が応援に出ているため、整理が必要。もう少し検討する時間をいただきたい。 展示していた本がなくなったとしても、「借りられた」ということなので問題視しない。子ども向けというより、保護者向けのスペースになっていければと考えている。
会長	今のお話は中央に限った話か。
事務局	中央のみの話である。ただ、唐木田図書館など、先にやっているところもある。
会長	他の館もそういう動きをしているのか。
事務局	他の館には、中央の運用の整理もできていないので、まだ連絡していない。いくつか、すでにやっている図書館があるということである。他館は中央ほどおはなし会の回数も多くなく、カウンターから目の届く範囲に子どものスペースがある。中央は広く、死角も多い。きちんと整理が必要。中央でうまくいけば、他館にもお願いしていきたい。
委員F	よいことだと思う。紹介したい事例がある。稲城市の中央図書館ではおはなし会で読み聞かせした本のリストを1枚にまとめて配布している。本の設置も良いし、リストの配布も良い。事例をこのまま真似をしてほしいわけではなく、多摩市でも何かあるとよいと思う。
事務局	稲城市は、おはなし会の開催方法が異なっている。職員が必ず一緒に実施していると伺った。リスト化がスムーズにできているのはそういった違いがあると思われる。
委員F	本来であれば多摩市でも職員がついてほしい。
事務局	もちろんそうしたいが、なかなか難しい。
委員F	多摩市でやるとして、報告でプログラムは渡しているので、作ろうと思えば作れるのでは。
事務局	300回を超えるものをまとめることになる。例えば、報告書自体を公開できるようにするのも手かと考えた。電子化することも検討している。データ化ができれば、リスト作成が現実味を帯びてくる。現状の手書きの状態では、かなりの時間を要する作業になると思われる。報告書が電子化されることについては、今出席されている皆さんは問題ないか。
副会長	高齢者が多いと難しい。できる人に任されてしまう。
委員G	日付と本のタイトルだけではどうか。ごくごく簡略化する。
副会長	ちょっとした調べものすら困難を感じている人もいる。スマホを持っていない人すらいる。
会長	図書館が出力できる、借りた資料のリストではどうか。
事務局	貸出資料一覧は本当に貸出しているものの一覧でしかない。報告を見ないと実際読んだ本がわからない。
副会長	各団体に許可を取って、フラットファイルに綴じた現状のままでの公開はできないか。
事務局	許可をいただけるのであれば、それも可能。
委員G	感想も書いてあるので、フラットファイルの公開は難しいと思う。リスト化を目指して本のタイトルだけでの報告はどうか。負担減も考えたい。
事務局	同じように考えている。
委員E	当団体ではプログラムを作成し、事前に関戸図書館に印刷したプログラムを渡している。そのまま使っていただくこともできる。おはなし会の前に、図書館に簡単な読む本のリストを渡すのも難しいか。
委員D	こちらも事前にプログラムをメールで渡している。あくまでプログラムなので、集まった子どもによっては本番では違う本を読むという可能性もある。確実なのは報告書である。
事務局	打ち込むのと、コピー＆ペーストとでは、作業効率が大きく違う。電子でいただけると大変助かる。報告書が電子化されれば、必要な箇所のみを抜き出すこともできる。

委員G	フォームに我々が打ち込むだけのようにはできないか。
事務局	例えば、ひとつのエクセルファイルにといったイメージか。今日はこの団体、明日はこの団体のような。
委員G	それぞれのグループの人が行って、打ち込む形式。
事務局	一般のインターネット環境と、行政のインターネット環境は異なる。皆さんと同じファイルを共有する方法がない。グーグルフォームなども使うことができない。例えば、「春のおすすめの読み聞かせ絵本」といったものを、アンケートのように期間を定めてフォームで募集する。フォームであれば電子データになるので、我々が取りまとめておすすめ絵本のリストの作成はできる。
委員D	すでに中央図書館のおすすめ絵本展示を実施している。
事務局	最初にご説明した展示をするにあたって、モバイル書架をご用意しているとお話した。そこにプログラムを貼っていただく方法もある。おそらくほとんどの団体が作成していると思われるので、終了後にそこに貼っていっていただく。または、プログラムを写真に撮って、写真を図書館に送っていただくという方法もある。工夫して作ってくださっている団体が多いので、思いつきのようなものだが挙げさせていただいた。
委員E	そういった思いつきを出し合って、今すぐにではなくてもやれたらと思う。
事務局	写真の方が、展示としてにぎやかではないかと考えている。各団体の色が出るのではないかと考えている。データからの出力は見やすい文字ではあるが、雰囲気は写真の方が伝わるのではないか。団体同士の交流にもなるのではと思っている。 具体的に、どのくらいの大きさのプログラムを作成しているか伺えるか。
委員E	作成しているのはA4の大きさである。
事務局	その大きさであれば、けっこうな数が貼れる。（実際のモバイル書架を運び込み）板の組み換えができるので、本とともに掲示することもできる。プログラムを特別作っていなくても、その場で手書きのものでも貼っていただければと考えている。整ったものばかりでなく、手作り感も出て雰囲気がよいのではないか。 先ほど出たフォームについて補足すると、当連絡会の委員の応募についてのフォームと同じものである。団体によっては対応できる方が限られてしまうことがわかったので検討が必要だが、複雑なフォームではないのでそこは安心していただきたい。
委員E	おはなし会の前にプログラムを掲示してもらうことは、中央図書館でできるか。関戸では1～2週間前に掲示してもらっている。
事務局	現状は場所がないので難しいが、おはなし会用の掲示板ができれば、運用としてできなくはない。
委員H	事前のプログラムの大きさはどのくらいか。
委員E	A4で出しているが、縮小してもらってもかまわない。 あわせて、おはなし会カレンダーは毎月出ているか。
事務局	サイネージ（電子掲示板）で掲示しているほか、カウンターに設置もしている。 新しいカレンダー形式になったのが今月からのため、まだ目に触れる機会が少ないのかもしれない。徐々に浸透すればと考えている。
会長	おはなし会の展示がおはなしのへや付近に常駐することについて、本の運用については図書館に検討していただき、終了したおはなし会・これからやるおはなし会の情報が掲示されるということでよいか。
事務局	そのような想定である。
副会長	開始はいつからになりそうか。

事務局	ここで話がまとまったとしても、祝休日に他館から応援職員が来ることもあり、全館のカウンターに周知をする時間が必要になる。ただ、遅くとも今年度中には始めたいと考えている。ほんともフェスタには間に合いたい。
副会長	ほんともフェスタに向けて用意をしてほしい。

(3)多摩市民表彰について	
事務局	コアラ文庫さんを推薦させていただき、承認された。10月31日午後、関戸公民館のヴィータホールで表彰式がある。

5. 次回の日程及び議題について	
会長	1月22日(木)13:30～15:30、会場は中央図書館2階活動室2・3で問題ないか。
	決定
会長	次回の議題について。「ほんともフェスタ」直前の印刷物確認のほか、議題があるか。
委員F	第二次多摩市読書活動推進計画進行にあたっての、市民ボランティア連絡会について話し合いたい。
会長	計画はホームページに掲載されている。ご確認いただきたい。
事務局	他にある方は11月中に企画運営担当2にご連絡いただきたい。

情報共有	
委員H	文庫展のお知らせ。 11月16日(日)にベルブ永山、11月30日(日)に中央図書館で実施する。おはなし会と工作を予定している。
委員F	10月26日(日)の子どもが好きな昔話を大人が聞く会のお知らせ。 午後2時～4時、子どもに聞かせている昔ばなしを大人に向けて披露する。
委員D	作家アーサー・ビナードの講演会のお知らせ。 11月1日(土)18:45～ベルブホールで開催。言葉や絵本だけでなく、環境問題についても触れる。 委員Iからの報告も聞きたい。
委員I	2年に1度、桐生市で「手づくり布の絵本全国コンクール」が開催されており委員個人も出展したが、今回(第14回)オリジナル布絵本『ゆきだるま？』が「空想のつばさ賞」をいただくことになった。アイデアに優れた作品に贈られる賞。
副会長	その作品はどこかで見られるのか。
委員I	桐生市の図書館に置いてある。
委員D	作品は1つしかなかったと記憶している。しばらく返ってこないのか。
委員I	受賞作品は12月中桐生市に展示されるとのことだった。
委員D	他にどのような賞があるのか。
委員I	「織物のまち大賞」(最優秀作品)、「織姫賞」(技術的に優れた作品)、「審査員賞」が5作品選ばれる。他に展示会場に来場された方の「人気賞(おとな投票)・(こども投票)」がある。今回は全72作品が出展された中から選ばれた。
委員F	多摩でも過去に布の絵本のイベントが開催予定だったが、コロナ禍で流れてしまい残念だった。

閉会